

春秋会

ニュースレター

2022.9



今月の予定

・9/20(火) 12時 第6回幹事会

・9/26(月) 18時 9月総会・懇親会

今月のニュースレターも豪華なラインナップでお届けします。
皆さまからのご意見・ご感想など、広報委員一同楽しみにしています。

古典芸能よもやま話

～落語について(1)

中村 和洋(49期)

大好評だった小橋るりさんの連載の後を引き継いで、古典芸能のことを書き連ねたいと思います。

簡単に自己紹介しますと、私は元検事の修習49期、現在弁護士登録15年目となります。

さて、私は、子供の頃から芸能番組を見るのが大好きで、「笑点」や「お笑いネットワーク」を楽しみにしていました。特に音曲漫才がお気に入り、「毎度～皆様～♪」と宮川左近ショーの物まねなんかをよくしたものです(若い人、わからないでしょうね)。

そのうち落語にはまりまして、大学時代には司法試験を受けるか、桂米朝師匠に弟子入りするか、半分本気で悩んだことがあるくらいです。

これからしばらく落語の話を書きたいと思いますが、枕としてほんの小噺を。

最近、刑事裁判ではメール等の電子データが証拠の中心となっておりまして、取調べの録音録画もされるなど、客観証拠が非常に大切になっております。ある日、刑事弁護を多く手掛けて、客観証拠の重要性をよくご承知のはずのA弁護士が家に帰りますと・・・。

A「いやー。今日も疲れた。」

妻「あんた、最近、いつも遅いねー。」

A「そうやねん。先週なんか、三重県の津まで車で出張やで。名阪国道、高速やないさかいに時間がかかってしょうがないねん。ほんま、疲れた。」

妻「津、ですか。カーナビの履歴見たら、行先が城崎温泉になってましたけど。」

A「えっ。カーナビの履歴?そんなん見る?ちゃうねん。それは、お前と今度一緒に行こかなと思って、経路調べただけやねん。」

妻「そうですか。ドライブレコーダー確認したら、城崎温泉の景色でしたけど。」

A「ドラレコ見たら、あかんがな。なにすんねんな。ちゃうねん。実はな、ずっと前に弁護士会長してはったY先生いるやろ。あの人、最近、ゴルフのし過ぎて足腰が痛いゆうてな。そんで、Y先生とか男友達と一緒に城崎に行ってきたん。男ばかりで温泉なんて、格好悪いさかいに、よう言わなんだ。すまん、すまん。」

2022 年度 広報委員

- ・堀川 智子 (57 期、委員長)
- ・西原 和彦 (55 期、担当副幹事長)
- ・有村 とく子 (50 期)
- ・中森 俊久 (55 期)
- ・山口 昌之 (58 期)
- ・浦 寛幸 (59 期)
- ・広瀬 元太郎 (60 期)
- ・柳 勝久 (61 期)
- ・山田 寛子 (65 期)
- ・金 星姫 (66 期)
- ・木場 晶子 (67 期)
- ・田村 瞳 (67 期)
- ・板崎 遼 (67 期)
- ・吉留 慧 (68 期)
- ・高 一成 (69 期)
- ・根本 俊太郎 (70 期)
- ・佐久間 ひろみ (71 期)
- ・足立 敦史 (71 期)
- ・村本 健司 (71 期)
- ・河野 哲平 (71 期)
- ・才木 晴幹 (72 期)
- ・久井 大輝 (73 期)
- ・山本こずえ (73 期)
- ・佐々木 崇人 (74 期)
- ・神澤 鈴子 (74 期)

妻「Y先生って元気やけど、もう80近いお爺さんやん。えらい色気の無い温泉旅行やね。」

A「ないねん、ないねん。ちっとも色気ない。」

妻「そうそう。今日、あんたが弁護士会共済で入っているお得意様カードのことで、H急の外商の人から電話あったよ。たくさん高い買い物してくれて、ありがとう言うてはったわ。」

A「あー。仕事用の鞆をね。刑事弁護って、重い記録たくさん持って歩かなあかんやろ。ほんで、ちょっとええやつをな。」

妻「仕事用の鞆に？。エルメスのバーキンを。外商の人、きっと奥さんへのプレゼントですよって言うてはったけど。いつ持って帰ってきてくれるのん？」

A「H急、守秘義務、どないなってんねんっ(怒)。いや、そうやない。いやいや、そうですよ。あなたへのプレゼントです。すぐに持って帰ってくるがな。(小声で)えらい高いのん、もう1個買わなあかん、トホホ・・・。」

妻「何、泣いてるのん、けったいな人やな。(猫撫で声で)あー、それから、新地のナオミさんという方。あんたがえらいお世話になってるみたいやから、ようお礼言うときや。」

A「(蒼ざめて)新地のナオミ・・・。お前、なんでまた。」

妻「なんでも何も。あんた、『ナオミちゃん、バーキン気にいってくれた？城崎も楽しかったね♡また新地の店に行くからね♡』ってLINE、間違えて私に送ってるよ。」

A「ギャーーーーー」

どうか、客観証拠には皆様も、十分お気をつけください。なお、たまたま高額な買い物をしたときに、H急の外商が自宅にお礼の電話をしてきたというのは某弁護士の実話だそうです(恐ろしや～)。

本日は本題に入る前に、お時間となってしまいました。次回から、本格的な落語の話に入りたいと思います。それでは、また。ドンドン(中入りの太鼓の音)。

つづく(?)



落語を披露する筆者。本文とはあまり関係ありません。

6月号から続く怖い話第4弾!

今月は、「命のありがたさ」を感じるお話をお届けします。

夜怖くて眠れなくなっても広報委員会は責任を取りませんのであしからず。



命のありがたさを痛感したお話(66期:金 星姫)

2021年7月末。2人目を妊娠し、もうすぐ安定期に入るという時期で、つわりも落ち着いてきた頃でした。ふと、右足の裏側にある「ほくろ」が気になりました。「ほくろ」というにはとても大きく(直径1センチ以上)、輪郭がはっきりしないもので、シミやアザと呼んだほうが適切なものでした。「そういえばこの「ほくろ」、何年か前からあったような…よく見てみると前はこんなに大きくなかった気がするなあ。」と気になり、数日後、近所の小さな皮膚科に行きました。皮膚科の先生は、特殊な虫眼鏡のようなもの(ダーモスコープというそうです)で足の裏の「ほくろ」を観察していましたが、その表情はみるみる曇っていき、診察室に不穏な空気が流れました。先生は、私に「とても申し上げにくいのですが、悪性の皮膚がんの可能性が 있습니다。悪性黒色腫って聞いたことありますか?メラノーマとも言います。ただ、皮膚表面の観察だけで確定診断はできず、病変部を切り取って病理検査をしなければなりません。大学病院への紹介状を書くのですぐに受診してください。」と告げました。

一瞬、何を言われたのか理解ができずフリーズしてしまいましたが、「悪性の皮膚がん」という言葉が頭の中で何度もリフレインして、顔の血の気が引いて、心臓がバクバクしているのがわかりました。「私は死ぬのかな?お腹の赤ちゃんは大丈夫なのかな?」ととても動揺しました。病院からどうやって家まで帰ったかはっきり覚えていません。家に帰ってネット検索をしまくり、メラノーマで亡くなられた方のブログや、メラノーマは他のがんよりも圧倒的に予後が悪い、5年生存率が何%云々書かれたネット記事を読み漁ってパニックになりました。夫は「勝手に自分で決めつけずに確定診断を待とう。年始の健康診断では何の問題もなかったわけやし」と励ましてくれました。数日後、紹介状を持って大学病院で診察を受けましたが、やはり、大学病院の先生による診察でも、メラノーマの可能性が高いとのことでした。先生は「今日、ご主人は

お仕事？今から病院に来られるかな？」ということをおい、いかにも家族同席で「がん宣告」がなされるかのような雰囲気の中で話が進んでいきました。ただ、やはり見た目だけで確定診断はできないとのことで、私が安定期に入るのを待って（部分麻酔をするため）、9月1日に「ほくろ」の摘出手術をし、病理検査にかけることになりました。手術後、病理検査の結果がでるまでの2週間は、あれこれ検索しては気が滅入る日々に、生きた心地がしませんでした。幼い子2人を残して死ねない（不思議と夫のことは頭によぎりませんでした）、もしがんでも頑張る治療しよう、そう自分に言い聞かせていました。そして、1歳半の娘をたくさんハグしようと決めて、実行しました。

摘出手術から2週間後、出た検査結果は…「ただのほくろ」でした。思わず診察室で「え〜〜！」と大声をあげてしまいました。覚悟を決めて病院に行きましたが、ホッとして泣きそうになりました。近所の皮膚科を受診してから1ヶ月半ほど、こんなにも自分の命が有限であることを実感した期間はありませんでしたし、自分の命の「終わり」について考えた期間はありませんでした。そして、健康であることの素晴らしさ・ありがたさを痛感した期間でした。また、初めて「メラノーマ」という皮膚がんを知り、治療が遅れたために命を失った方々の記事やブログを読み、とても怖い病気であることを知りました。先走って皮膚がんであるかのような話を医師からされたことに、後々少し腹が立ちましたが、医師でも判断は難しいものようですし、「ほくろ」に似ているので気づきにくく、がんの自覚症状が出る頃にはかなり深刻な状態になっていることが多いそうです。

ちなみに、検査結果が出る4日前、深夜にお腹があまりにも痛くなって生まれて初めて救急車を呼んで運ばれました。虫垂炎でした。妊娠中に虫垂炎になるという、これはこれ単体で怖い思いをしました。※救急隊員と搬送先の病院の先生から「今まで一番痛かったのを100とすると、お腹の痛みはどれくらい？」と聞かれました。

2人目の妊娠は本当に波乱万丈でしたが、無事に生まれてすくすく育ってくれているので、感謝の気持ちでいっぱいです。子どものためにも、心身ともに健康であらうと思います。



第2回研修のご報告

「しくじり先生～教育事業撤退から学んだこと」

中村 和洋(49期)

7月22日(金)午後6時から、公認会計士の河野 研(こうの けん)先生を講師としてお迎えして、「しくじり先生～教育事業撤退から学んだこと」と題して研修が行われました。



会場、ZOOM あわせて、30人ほどがご参加されました。

講演の内容を簡単にご紹介します。

公認会計士として十分な成功を収めておられる河野先生が、「地元の奈良で、老後も続けられる仕事がしたい。」という思いから、幼児教育の教室の経営を始められました。立地、事業の具体的内容、収支の予想など、さすが公認会計士の先生、完璧な計画に見えました。

講演の語り口からも、非常に頭脳明晰であるばかりか、お人柄も優しさも伝わってきて、いかにも人から好かれそうで、どうして事業がうまくいかなかったのか、疑問に思えるくらいでした。

また、多店舗展開、幼児預かりサービス、高齢者向けの頭脳トレーニング教室など、聞いていると、どれも素晴らしいアイデアです。

それがあの日、幼児教育の現場を任せていた従業員さんの「ちょっと、お話があります。」との一言から、事業はどんどん難しい方向へ……。結構しんどい話ではありますが、河野先生が、正にテレビ番組の「しくじり先生」のように、サービスたっぷりに面白く話をしてくださるので、ついつい引き込まれ、あっという間の1時間30分の研修でした。

私たち弁護士も、多くは経営者であり、事務局員を雇用する立場です。また、クライアントの経営に関連する相談にもものごとがありますので、ほかの事業に手を出してもうまくいくのではないかと、思わなくもありません。しかし、やはり「資格」に守られていて、事務局員に顧客を奪われることはなく、仕事のキャスティングボードを握られてしまうこともありません。

士業がもし副業ををするとしても、自分が完全にコミットできない仕事をするとは、なかなかリスクが高いことがよくわかりました。

日々、刑事事件の接見や、裁判での尋問に追われていると、「年をとっても、こんな肉体労働できるかな……。なんか、会社経営者みたいに、自分が労働しなくてもお金が入る仕組みがないかな。」と、ふと考えるときがあります。しかし、事業の経営というものは、当たり前ではありますが、才能と努力が必要だと再認識した次第です。

でも、自分の失敗談を冷静に客観視されている河野先生を見ていると、次こそは何か事業に成功されそうな気がします。私もいずれ、「バー経営」を……。などと、妄想してしまう次第です。

若手会主催

第2回懇親企画「ビアパーティー」

若手会世話役：阿武 修平（69期）

若手会歓送迎会に続き、8月5日に若手会主催で第2回懇親企画「ビアパーティー」を行いました。



今回のビアパーティーは、心齋橋 SORASITA という BBQ スペースを貸し切って行い、総勢21名の先生方にご参加いただきました。今回のビアパーティーでは、特別ゲストとして、今年度大阪弁護士会会長の福田先生と幹事長の飯島先生にもご参加いただきました。

まずは福田先生のユーモアたっぷりのご挨拶及び乾杯の音頭の後、国産黒毛和牛のお肉を焼こうとしたところ、まさかの大きな塊肉

での提供であることが判明!世話役一同焦りましたが、そこは世話役の皆様さすがでした!迅速に手を消毒した上で、塊肉を包丁で切るところから始めて、何とか参加して頂いた皆様にお肉を提供することができました(笑)。

その後は、同期の池田けんけん先生の司会の下、景品アリのクイズ大会を行いました。出題した問題が難しすぎて皆様頭を抱えていましたが、目玉景品のヨギボーをGETするため、皆さんとっても真剣に考えてくださいました。



白熱のクイズ大会の後、最後は、72期の満村先生が目玉景品のヨギボーを手に入れられました。おめでとうございます!

今期の若手会では、今後も若手弁護士がたくさん交流できるように、様々な楽しい企画を実施していく予定です。近々、次回企画の告知も行いますので、ぜひ楽しみにしていてください!!



今月の一曲 ~Take It with Me~

青木 佳史(41期)

じゃあ、死ぬ時に聴きたい一曲は?

そんな話で盛り上がるような年頃になってきた。とはいえ、そんな簡単には決められない。大体、その時になってみないと気持ちも変わるだろうし、だから尊厳死宣言とかACPとかいってもやっぱり難しいわけ

で云々。と、くだを巻いた末、まあでもこの曲かなあ、できたらシュレットタイエルさんの歌でね、というのが今月のお話。

もうここにはいない大切な人との日々を回想しその思い出を抱いて旅立つ歌。

“Take It with Me”

この歌に出会ったのはかなり昔のこと。レコード屋のジャズコーナー



でジャケットに惹かれて試聴したノルウェーの歌姫、スールヴァイグ・シュレットタイエルさんの「Silver」というアルバムの一曲目にあった。実験的なジャズトリオをバックに歌い出す彼女の声、郷愁を誘うメロディ、絶妙な転調とトランペットの囁き、どこか温もりを伴う寂寥感に魅了され、試聴なのに2回も通して聴いてしまった。

Silver の一曲目のバージョン

https://youtu.be/C_YRkygZ0tc

歌はこんなふうが始まる

受話器はずれたまま

わたしたちの居場所は誰も知らない シャンパンを飲んだのは随分昔のこと

海はあなたの瞳の色のように青くて

この想いを持っていこう 私が旅立つときには

コニーアイランドで暮らしたあの頃から

ずいぶん長いときが経った

あの頃の素敵な思い出は決して消えることはない

この想いを持っていこう 私が旅立つときには

そしてこう締めくくられる

ある土地のどこかに ある町があり



(NY州コニーアイランドの夕暮れ)

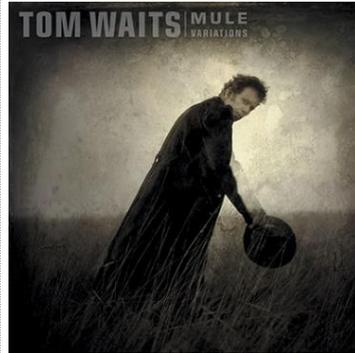
その町には ある家がある

その家には ある女性がいて

その女性には 私の愛した心がある

この想いを持っていこう 私が旅立つときには

この歌を作ったのは、アメリカの「酔いどれ詩人」と呼ばれる個性的ミュージシャンで俳優（F・コッポラやジム・ジャームッシュ監督の作



品等) のトム・ウェイツさんと妻のキャスリーン・ブレナンさん。1999年のアルバム『ミュール・バリエーション』に収められた。前奏のピアノのイントロで一気に引き込まれる。独特の風貌と嗄れ声の歌は少しとつき憎いけれど、かめばかむほど味わい深く、沁みってくる。

トム・ウェイツのオリジナル。 <https://youtu.be/dCiPaNWHB2U>

このメロディと歌詞に惹かれ、たくさんのカバー曲が生まれた。

男性が歌うのと女性とでは広がる情景がずいぶんと違う。語りのようだったり、歌い上げたりでも、浮かぶ登場人物が変わる。バックの演奏によっても、原曲のプリペイドピアノはたまらないが、ジャズバンド、ピアノ独奏、ギター、オーケストラでも、それぞれに辿ってきた道程が映し出されるようだ。

演奏によって様々な人生を映し出す万華鏡のような一曲。

シュレットタイエルさんのピアノバージョン

<https://youtu.be/HItackuUK8g>

マシュー・ジョーンズさんのギターの弾き語り。

<https://youtu.be/svPqz3-wlgY>

さて、あなたなら、最期にどんな一曲を選ぶでしょうか。

※ Take it with me の spotify プレイリストはこちらから。

<https://open.spotify.com/playlist/7IDualLdrDsz2nCZpBIZIyM?si=bdd25d658e124bb9>



執行部だより

研修委員会担当副幹事長 田積 祥子(65期)

本年度、研修委員会を担当しております、田積と申します。

これまで春秋会の活動には、若手会幹事を2年させていただいた程度で、子育て中ということもあり、ほとんど参加しておりませんでした。ですが、オンラインや、朝・昼の時間を活用し、無理のない範囲で楽しく活動していきましょう、と幹事長より温かい言葉をいただき、それならやってみよう!と、副幹事長を務めさせていただくことになりました。宜しく願い致します。

副幹事長に就任してはや5ヶ月となり、ようやく、活動内容にも慣れてきたように思います。毎月開催される正副幹事会、幹事長会、各委員会活動等、幅広い期の先生方が、多数積極的に活動されてこそ、春秋会の会派が運営できているのだと、そんな当たり前のことを実感することができました。だからこそ、お一人お一人の先生方の負担感を減らすとともに、より多くの先生方が気軽に楽しく参加できるような、そんな会派活動であることが大切だと思っています。

その一助として、本年度からの新たな予算費目に、若手会員活動活性化費、委員会活動運営補助費・活性化費が新設されました。この予算の成立に携われたことは、非常に貴重な経験でした。

さて、研修委員会では、本年度、既に2回研修が実施されました。いずれも、リアルと Zoom とを併用したハイブリッド開催で、研修後には懇親会も実施でき、大変盛況でした。やはり、懇親会等で縦横につながるのには、春秋会の醍醐味であると思います。

今後は、11月7日(月)18時30分から、弁護士会館10階にて、岡口基一裁判官と中村真弁護士による研修を予定しています。「裁判官! 当職そこが知りたかったのです。」の書籍を題材に、この研修だからこそ聞ける内容にしたいと準備していますので、ふるってご参加くださいますようお願い致します。

また、阪急メンズ館の方をお招きしたスーツ研修や、若手の先生方のためになる研修、官民協働の新しい刑務所を題材にした「プリズン・サークル」の自主上映企画等も検討しています。

コロナが再燃しており、どこまでリアル開催できるか予断は許しませんが、色々と工夫をしながら、先生方に楽しんでいただける研修を企画致しますので、是非、ご参加くださいますようお願い致します。



ニュースレターの原稿大募集します

広報委員会といたしましては、このニュースレターを双方向的なものにしたいと思っており、皆様の原稿を大募集します。ぜひ、投稿ください。

- 1 今までのニュースレター・会報の記事に対するご意見
- 2 子育て体験談
- 3 変わった国に行った旅行記
- 4 ペットや趣味の紹介
- 5 感動した本、マンガ、ゲームの紹介

下記にお送りいただければ、ニュースレターに掲載させていただきます（もちろん、一定の審査はさせていただきますが…）

horikawa@lion-law.com